

平成 26 年 二級建築士試験「設計製図の試験」の課題の分析

今年の課題は次のように発表されました。

「介護が必要な親(車椅子使用者)と同居する専用住宅(木造2階建)」

〈要求図書〉

- ① 1 階平面図兼配置図、② 2 階平面図、③ 立面図、④ 断面図、⑤ 2 階床伏図兼 1 階小屋伏図、
⑥ 部分詳細図(断面)、⑦ 面積表、⑧ 仕上表、⑨ 計画の要点等

主なポイントとして次の点を挙げることができます。

1. 屋内でも車椅子を使用する計画

今年の課題の特徴は、何といても「屋内でも車椅子を使用する」という点にあります。そのため、屋外から玄関までのアプローチや屋内の動線はもちろん、玄関部分でも段差を解消できるような計画（スロープや移乗台の設置など）が求められるでしょう。

その他、出入口の幅、廊下の幅、洗面脱衣室、便所、浴室の大きさ、駐車スペースの大きさにも大きく影響します。

2. 図面が従来の5種類から6種類へ

従来の木造課題では、矩計図が要求されるのが一般的でしたが、今年は矩計図に代わって、④断面図、⑥部分詳細図(断面)、⑧仕上表が要求されています。

図面の数は、従来の5種類から、今年は①から⑥の6種類に増え、作図量が多くなります。答案完成が合格への第一関門となります。

3. 部分詳細図(断面)について

「部分詳細図(断面)」は、「部分的な矩計図」と考えればよいでしょう。ポイントは、「どの部分か」ということです。

平家部分を描かせる、小屋組周辺を描かせる、基礎周辺を描かせるなどが考えられますが、課題が「介護が必要な親(車椅子使用者)と同居」であることから、「段差の処理」が計画の大きなポイントであり、アプローチ周辺の部分詳細図を描かせる、という可能性も十分に考えられます。したがって、様々な部分に対応できるような対策が必要です。

4. 仕上表について

仕上表は鉄筋コンクリート造課題では定番です。外部および内部の主要な部位について、それぞれ仕上材料名および下地材料名の記入が求められるでしょう。

5. 矩計図が無くなったことにより、敷地の大きさの自由度が増大

忘れてはならないのは、矩計図が無くなったことにより、答案用紙のレイアウトの自由度が大きく増したことです。それによって、敷地の大きさの自由度が増しますので、横長の敷地だけでなく、縦長の敷地なども考えられます。

■ TACでは、以上のようなポイントを的確に捉えた良問を厳選して対策を行います。

■ 平成 24 年から始まった新試験制度の方針は、「設計の自由度を高める」、「できるだけシンプルな建築物又は一般的な建築物の設計課題」とすることです。そのような試験に対する対策は、決してたくさん課題を解くことではありません。

■ TACでは、消化不良を起こすことなく、1 課題 1 課題、十分に消化でき、着実に力を付けていける対策を行います。

【2014合格目標 二級建築士 設計製図本科生】の詳細こちら！

http://www.tac-school.co.jp/kouza_kenchiku/kenchiku_crs_seizu.html